

Maternal Anemia during the First Trimester and Its Association with Psychological Health

妊娠初期における貧血と周産期メンタルヘルスとの関係

Kwak DW, Kim S, Lee SY, et al. *Nutrients*. 2022;14:3505. PMID: 36079763

妊娠中は生理的な血液希釈や胎児・胎盤による鉄需要の増大によって貧血になりやすい。また、妊娠中の貧血は早産や低出生体重児などの周産期合併症のリスクである。一方、近年は産後うつ病との関連も注目されている。本論文は、前述の変化が少ない妊娠初期においての貧血が産後のメンタルヘルスと関連するのか調査した報告である。

本研究 (Korean Pregnancy Outcome Study) は 2013-2017 年に韓国の Cheil General Hospital & Women's Healthcare Center と CHA Gangnam Medical Center で実施された大規模前向きコホート研究である。対象は全て韓国人で、メンタルヘルスに関する調査が妊娠 12 週、24 週、36 週、分娩時、産褥 4-6 週に行われた。不安症の評価を Hospital Anxiety and Depression Scale (HADS)、うつ病の評価を韓国版エジンバラ産後うつ病評価票 (K-EPDS) で行われ、各々の診断基準は HADS \geq 8 点と K-EPDS \geq 10 点だった。ヘモグロビン値は妊娠 12 週と 36 週に測定され、WHO の定義と同様に 11.0 g/dL 未満を貧血とした。

結果は、妊娠初期に貧血を認めたのは 119 例 (貧血群) で全体の 2.9% であった。一方、貧血が認められなかったのは 3,843 例 (正常群) であった。貧血群は正常群と比し、未婚率 [4.0 vs. 10.1%, $P=0.002$] と双胎妊娠率 [1.4 vs. 5.0%, $P=0.003$] が有意に高率で、これらは、単変量および多変量解析において妊娠初期の貧血に関連する独立した因子であった。周産期事象においては、貧血群は正常群と比し、低出生体重児 [8.9 vs. 3.7%, $P=0.02$] と Small for gestational age (SGA) 児 [18.9 vs. 8.2%, $P<0.001$]、産褥期の K-EPDS \geq 10 点 [25.4 vs. 16.3%, $P=0.042$] および HADS \geq 8 点 [16.9 vs. 9.3%, $P=0.031$] の割合が有意に高率であり、ロジスティック回帰分析においても、妊娠初期の貧血はこれらの risk factor であった。さらに、妊娠初期に鉄剤を内服した場合は、内服しなかった場合と比し、正常群において低出生体重児 [2.6 vs. 4.3%, $P=0.013$] と SGA [7.0 vs. 8.9%, $P=0.063$] の割合が有意に低率であった。しかし、K-EPDS と HADS は、両群のいずれにおいても差はなかった。

私見を述べる。本論文は、非妊娠時に貧血だった女性が妊娠した場合、産後うつ病や SGA 児分娩のリスクである可能性を示した研究である。特に周産期メンタルヘルスに関しては、preconception care として妊娠前からの栄養指導が重要であると考えられた。

(2023 年 2 月 文責: 評議員・幹事 中林 靖)